

第 29 回富士山世界文化遺産協議会作業部会

日時 令和 7 年12月12日(金) 11 時 00 分～

場所 富士吉田合同庁舎 2 階 大会議室

1 開会

2 報告

(1)今夏の富士山の状況について

事務局(山梨):資料1を説明。

(質疑無し)

(2)富士山包括的保存管理計画の改定について

事務局:資料2～資料2-3を説明。

御殿場口山内組合:この計画を見ると、狭義の計画としか思えない。年間を通じての管理計画はこの中には全然入っていないが、閉山期間も富士登山をする方がかなり増えている中で、閉山期間の管理計画も多少でも載っていないと手落ちのような気がする。

事務局:開山期をメインに視野に入れた、年間を通じての富士山の文化的価値を守るための計画になっている。冬期に富士山を登る方については、現行の計画では基本的に想定をされていないので、書かれていないところかと思う。本来冬には登ってほしくないのも、そういった方について保存管理計画でどう位置づけるか、位置づけるべきかどうかということも含めて、今後ひとつの検討事項として、考えさせていただければと思う。

御殿場口山内組合:閉山期間中に登る人がおり、富士山の岩に矢印をつけ、それを関係者が後で消すという話がある。開山期間中は標識があるが、閉山期間に全部片づけてしまうので、閉山期間中に登る人が親切のつもりで矢印をつけているのではないかと思う。だから閉山期間の管理計画もいくらかでも載せないと手落ちのような気がする。

事務局:夏は、下山道・登山道とも看板を置いているが、一冬置いておくと傷んでしまうので撤去している。自然公園法等の観点でも、持ち帰りも、落書きもして欲しくない行為だというのは間違いないので、どのように阻止するかは、当然対策していかなければならないことだと思っている。計画に書いてやるべきかどうかは即答できないが、大事な視点なので、書くか書かないかを含めて課題として捉えて反映させていただければと思う。

富士吉田市住民代表:「アトリビュート」や「インタープリテーション」など、聞き慣れない言葉がある。日本の計画なので、日本語での標記を検討してもらいたい。

また、今回の項目の見直しなどは非常によいと思うが、前回の作業部会でも話をしたが、吉田口でも、登録されて以降 12 年経って、残された歴史的なものがどんどんと荒廃している。何のために保存管理計画を作ったのか。ぜひ行動計画の策定と実施をより明確に強く計画の中に入れて

実行していかないといけないと思う。放っておくと三合目の建物も倒壊してしまうなどなる。そういうことがないように、そもそも普遍的価値を未来に承継していくというのが目的であると思うので、守るべきものを守り、保存すべきものを保存して、しっかり後世に伝えていくということを現実のものとして位置付けてもらいたい。

事務局:「アトリビュート」や「インタープリテーション」など聞き慣れない言葉があるというのは、ご指摘の通り。ただ学術委員会では、訳語で書いてしまうと本来の意義が伝わらないというところで、英語の方がより正確ではないかという意見が出たためこのように書いている。ただ、これだけだと確かにわかりにくいところもあるので、片仮名英語を書いた上で、それ自体がどういう意味かを、逐語訳というわけではなく、より広い概念、それが何を意味するかを括弧書きの日本語で書いて、その言葉とそれが何を意味するかがわかるように書ければと思っている。

また、行動計画が大事だというのは確かで、作ったところで資産が朽ちてしまえば意味は無いので、全体を見直す中でより実効性の高いものにする方向で考えたいと思っている。

小山町住民代表:片仮名の表記のことだが、一般の人が見たときに全くわからない。ニュアンスがちょっとということなら片仮名の方を括弧書きにして、誰が見ても日本語でわかるようにしていかないとここでやっていることが浮いてしまう。一般の人たちから、乖離してしまうことはまずいと思うので、片仮名を括弧書きにした方がいいのではないかと。

事務局:どちらがわかりやすいかはいろいろあると思うが、いずれにしても片仮名英語だけ書くことはせず、すべての方がわかるような表記にしたいと思う。

3 議事

(1) 令和6年度経過観察指標に係る年次報告書(案)について

事務局:資料3を説明。

御殿場口山内組合:7ページ表2について、なぜ7月8月だけに絞るのか。閉山期間の5月、6月、それから9月から11月までの五合目への来訪者はおそらくこの倍になるのではないかと。7月8月だけに区切る意図を伺いたい。

事務局:モニタリングは年間ということも考えるが、やはり五合目の来訪者としては開山期に来る方が非常に多い。他の時期に来ているのも確かだが、開山期に来る方が多いので、開山期に来る多くの方を見ることにより、富士山の状況が一番把握できるのではないかとということでこの指標を設定して暦年の変化を取っているところ。

御殿場口山内組合:全体の数字もやはり知りたいと思うが、いらないのか。

事務局:当然 365 日毎日観測できるというのが一番いい状態だと思うが、費用対効果を考えるとなかなか難しいところもあり、現在は7月、8月の状況でモニタリングをしているところ。暦年の変化を見ることが大事であり、なかなかすぐに変えることはできないが、他のところはいらないかどうかは再度考えたいと思う。

御殿場口山内組合:先ほど遭難の対象者が出されたが、これは年間なのか、あるいは7月・8月だけの数なのか。

事務局：資料 1 は開山期の報告であるため、開山期間の数字となっている。

富士吉田市住民代表：以前から永久凍土が春の土砂災害の拡大につながっているのではないかとこの研究成果みたいなものもあったので、自然環境の変化という指標の中で、永久凍土の調査を加えたらどうかという意見を以前からしている。技術的なことも含めて検討するという話をいただいているので、検討状況がどうなのか報告をお願いしたい。

事務局：いろんな有識者や業者に聞いているところだが、どういう指標をどう設定するかというところが正直行き詰まっている。例えば経年変化ということで、何かポイントを置いて、毎年ヘリコプターで写真を撮って違いを見るなどでもできるのではないかと意見もいただくが、非常に莫大な費用がかかると言われている。また、研究者の方にも聞いたが、永久凍土という視点もあるが、それよりも気温の変動によって、夏は石が膨らんで冬は縮こまって、その隙間にまた水が入って凍るなど、気温が高くなっていることの影響があるのではないかとのことだった。

昨年意見をいただいて、環境省をはじめいろいろ意見を聞いているところだが、現状は引き続きどういった指標でやれるかということも含めて検討しているところ。いずれにしてもこうした意見があったことは学術委員会でも話をし、次期の計画見直しの中で検討していく。

小山町住民代表：永久凍土についてだが、モニタリングみたいに同じ場所で同じところを撮るという方法で、素人でもパッとわかるような形で変化を見ることは不可能なのか。

事務局：そういった視点ではまだ検討していないので、ご意見を参考にさせていただきたい。

小山町住民代表：気温が上がると熱帯性の昆虫も上の方へ来るが、その影響はここでは調べないのか。

事務局：今のところ病虫害と獣害に関してのみ調べているが、昆虫についてはまた広く専門家の意見を聞いて、そういった指標があり得るか考えたいと思う。

吉田口旅館組合：7 ページの表 2、3 について、例えば令和 6 年度の各登山口、五合目の来訪者数を見ると、富士宮以外の御殿場・須走・吉田は、もちろん八合目の登山者数よりも多くなっているが、富士宮は八合目の登山者数よりも五合目の来訪者数が少ないことになっており、明らかにおかしいような気がするがどういうとり方をしているのか。

事務局（静岡）：各観光協会からも情報提供いただいているが、確認したところ、登山者を抜いた数を把握してきている。そのため、五合目に来た数から登山者数を抜いた形で、富士宮については報告してきた経緯がある。ご指摘の通り、考え方がばらつくのはどうかということもあるので、どこかのタイミングで揃えた方がいいのではないかと考えてはいるが、経年変化、モニタリングという観点で言うと、いきなりある年から数字が変わることもどうかと思い、富士宮については登山者数を抜いた数を計上しているという考え方でお願いしたい。

吉田口旅館組合：五合目の来訪者数はそれぞれどういった形で取っているのか。なかなか把握するのが単純に難しいと思うが。

富士宮市観光課：富士宮市の五合目に関しては、直接的にカウンター等が設置されているわけではない。五合目に車両等でアクセスする際、富士山スカイラインに関しては、台数の機械計測を富士土木事務所で行っている。富士宮市で係数を設定し、1 台当たり何人というものをこちらで計

算をして算出した数字である。

吉田口旅館組合：そういうことであれば他の期間の数字を出すのに莫大な費用がかかることもないような気がするし、それなら単純にそのデータをここに並べてみたらいいのではないかなという気がするが、他の登山道も同じような形なのか。

事務局（山梨）：観光入込客統計という、いろんな地点がどういう状況にあるかという調査をしていて、吉田口については、その調査の２ヶ月分の数字を使っている。

事務局（静岡）：御殿場と須走の数字については各市観光課から、山梨県と同じ視点でのカウンター計測と認識している。また、７月８月に人が集中するということで、おそらくこのようにしていると思うが、カウンターの計測自体を何ヶ月取っているのか、通年動いているのかというところも状況は一度確認したいと思う。

村山浅間神社：山梨県と静岡県の開山日がずれており、７月１日に山梨が開山して７月１０日までは富士宮は無料のため、１日から１０日までの五合目の混雑は開山日の１０日以降の問題ではないほどの人が登山しているが、その人数は考えていない。１０日に開山するとマイカー規制が入ってくるため一般車両が入ってこないが、１０日までは五合目までマイカーで登ってくるので、お客様を送っても帰るに帰れないということが実際にある。登山客に聞くと、その期間山梨から登るとお金が取られるが、こちらだと取られないからといって登っている人がかなりいる。それと、開山すると富士宮駅から一番バスが出るが、去年までは朝の６時半出発のバスが乗りきれなくて２台、３台と増便を出していたが、今年は増便が一、二回しかなかった。これだけの数字が出ているが、登山客は本当にそんなにいるのか。ローカル新聞、静岡新聞などでいろんな人数が出ているが、人数と入山料の金額が全然違うのはどういうことなのか。

また、「入山料が何に使われているのか」というのは、一般の人意見だと思う。登山道やトイレを直すと言っているが、富士宮口から言うとう一向に登山道もトイレも直っていない。五合目のトイレは現在仮設トイレだが、オープンにしたその日はきれいだが次の日はもう入れないほどの状況。くみ取り式で衛生車も毎日何十台と登っているが中までは掃除していかず、管理をする人がいないとなると、登山客からもう二度と来ないというような意見も出ている。その辺はどう考えているのか。

事務局（静岡）：７月１日から１０日までなど、開山期以外の登山をどう対応していくかはまた考えていかないといけない。開山日を統一するという考えもあるかもしれないが、一方で安全確保、現地の受け入れ体制が確保できるかという課題もある。マイカー規制の話もあったがそういったところとかさねて、開山日前後に何か他の方法でできないのかということも、様々な部署にまたがため話し合いが必要だが、いろんな視点で対策を考えていかなければいけないと思う。

五合目のトイレについて、不自由をかけているのは承知している。レストハウスが火災になり、そのあと県としても整備を急ぎやってはいるが、２、４００メートルということもあり業者と話が進まないというところもあった。今、設計を早く進めていくということで、議会でも予算を認められているので、急ぎしっかりと施設を整備できるように進めていきたい。

村山浅間神社：静岡と山梨の開山日を同じにすることは考えていないのか。

事務局（静岡）：たくさん意見をいただいているが、登山道ごとに事情があるということで、登山道

ごとに意見を聞きながら調整を進めているところ。特に須走口については八合目で合流するという事情もあることも聞いている。受け入れができるかどうかということも関わってくるので、まず、地元の方々と話し合いを進めていこうと考えている。

事務局(山梨):山梨県側は昨年から通行料を徴収しているが、どのように使っているかについては関係者の方に報告しており、ホームページ等でも報告しているところ。主にはシェルターの設置や、夏の間に山梨県が設ける 3 カ所の救護所に開山期間中に常時医療従事者を配置するなど、安全体制を高めるための取り組みに使用している。

人数について山梨県でいうと、五合目のゲートを通過した人数、富士吉田市が計測している六合目の数字、環境省が計測している八合目の数字の 3 つがある。わかりづらいというのはおっしゃる通りだが、それぞれ意味がある数字なので、わかりやすいように表示をしながら使いたいと思う。

事務局(静岡):例年だと八合目の環境省が計測する登山者数を出していたが、今年から静岡県でも五合目にてシステムで受け付けを始めて、その人数を発表したということで少し違う数字が近いうちに出たと思う。受付者数と入山料が合わないという点だが、これについては、減免の方や、事前に申請して支払ったが実際には来なかった方などもおり、そういうところで実際の登山者数とのずれが生じている。ここは、もう少しわかりやすくできればと思っている。

使途については、基本的に今年は初年度ということで実際に人を配置するなどの運営経費にかかった。また、例年行っているトイレの整備やそうした補助金に当てていくところだが、これについてはまた精算したところで公開をしていき、引き続き理解いただけるようにと考えている。

小山町住民代表:須走口で救急隊が形成されるのが 7 月 10 日からであり、それまでの間は下山道を間違えて須走口に下山した人は全く無防備な状態で不親切ではないか。せめて須走口だけでも合わせないと、登った人を行政の手助けがないところを下山させる形になってしまう。全部合わせるのが理想だと思うが、須走口だけでも合わせてもらおうと登山客に対していいのではと思う。

富士浅間神社:まず、マイカー規制がかかっていないときに五合目にどれだけ人が来るかというのは統計的にあった方がいいと思う。各登山道で五合目をどのように使っているかというのもあるかと思うが、須走口においては市を挙げて五合目に誘客を図っている現実もあるので、来年以降開山期以外の五合目の来訪者数の統計を取ってもらえればと思う。先ほど莫大なお金がかかるなどの話があったが、資料に出ている入山料を見て、全くまかなえないものではないと思う。

また、令和 7 年度にあたって特に開山前に富士山に登っている人が結構いるというのは、実際に須走口でも地元の方から話を伺っている。そうした中で今目標値に対してうまく規制できているという話があったが、それは 7 月 8 月だけの統計の話であり、トータルで見たときに本当にそうなのかという疑問がある。その上で開山期以外の登山者の規制をどうするのか。

開山日が違うことによって、そういう問題もある。世界遺産になる前は、開山日を統一していたと思うが、なぜ世界遺産になってからずれて、戻すのが難しいのかのわかりやすい説明が欲しい。

事務局(山梨):山梨県側は 90 年近く 7 月 1 日から 9 月 10 日であり、世界遺産だから変えたということはない。

統計について、開山期前後も取ったらいいのではという点については、必要性を吟味して考えさ

せていただきたい。

開山期以外に登ることはやめて欲しいが、実際にいるのは事実だと思う。かなり少ない数なので統計上どうするかということはあるが、統計とは別にそうした危険な行為をどうするかということは、重要な課題として認識している。また皆さんと一緒に知恵を絞っていい対策を考えていきたいと思っている。

事務局(静岡):開山日について、世界遺産登録前は、山梨は7月1日で統一していたが、静岡県側の三登山道はバラバラで、雪の状況などを見て開けられるタイミングで開けていた。世界遺産登録後にせめて三登山道は一緒にしたほうがいいのではないかとということで1つの目安として7月10日に統一をしたと聞いている。さらに話を聞くと、考えとして7月1日に開山という統一はした上で、実際に登山道が開く日がずれていたという話もあり、「開山日」と実際の「開通日」という言葉で分けたというようなことも聞いている。過去は統一していたという話も聞き、そこは整理をしなければならないと思っているが、開山日については、各地元とのいろいろな話し合いも重要と捉えてやっている。課題感を持っているので引き続き調整していこうと考えている。

小山町住民代表:何のために五合目の来訪者数を出していて、その数字で何をするのか。95%の正しさで結論が出るならこれでいい。

事務局:五合目の来訪者数については、各登山道の五合目に来訪する方がどういう状況か、毎年同じ状況を把握するということで出している。どういう状況であれば問題、どういう状況であればいい、というような定量的な数字は、基準では設けてないというのが実情。世界遺産登録の際にイコモスから人数が多いのではないかと指摘があったため、それが大きく増えていないということをもって問題がないということにしているのが、現状の指標の捉え方と理解いただければと思う。

小山町住民代表:今の話であれば全体数を出さなければおかしいのではないか。

事務局:登山者は原則として7月、8月しか登れないので、これでいいかと思う。五合目については、おそらく傾向を捉えられればということで、7月8月で十分だと設定をしたと理解している。ただ、年間がいいのか、これで十分なのかについては、もう1回考えてまたお答えしたいと思う。

4 その他

5 閉会